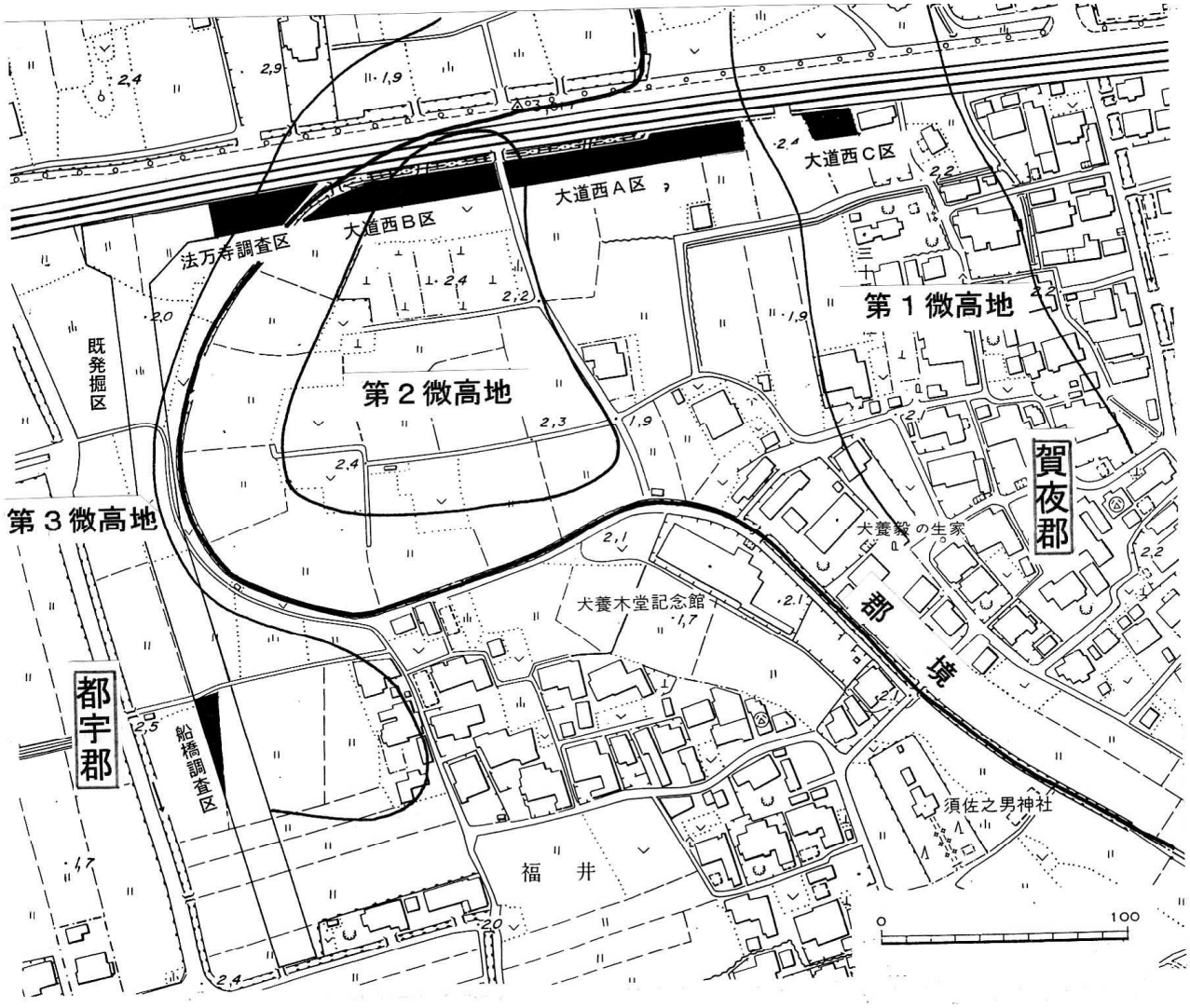
川入･中撫川（市道２号線）遺跡発掘調査
現地説明会資料

日時：平成15年5月10日(土)13:30～
場所：岡山市中撫川436 -1ほか
(川入･中撫川遺跡発掘調査現場)

岡山市教育委員会では、市道２号線の建設に先立ち、道路となって今のまま残すことのできない部分について、記録を残すための発掘調査をおこなっています。調査予定地には、周囲よりやや高い地形（微高地）が３ヶ所あり、それぞれに建物跡などの遺構が形成されています。平成１４年８月から発掘調査をおこなっています。



第１図　発掘区域図

現在の川入・中撫川遺跡の眼前には、水田や住宅地が広がっており、児島湖まではまとまった水域はありませんが、江戸時代より以前は内海が入り込んでおり、早島などは海に浮かぶ島でした。川入・中撫川遺跡はこの内面に面していました。山陽新幹線建設や新幹線側道、市道中撫川平野線、一般県道吉備津松島線改築工事などに伴う発掘調査で、飛鳥・奈良時代の軒瓦や、奈良・平安時代の倉庫群や、築地塀などがみつかったため、古代の港に関係する遺跡と推定されます。

調査地内にある微高地を東から第１微高地、第２微高地、第３微高地と仮に呼びます。

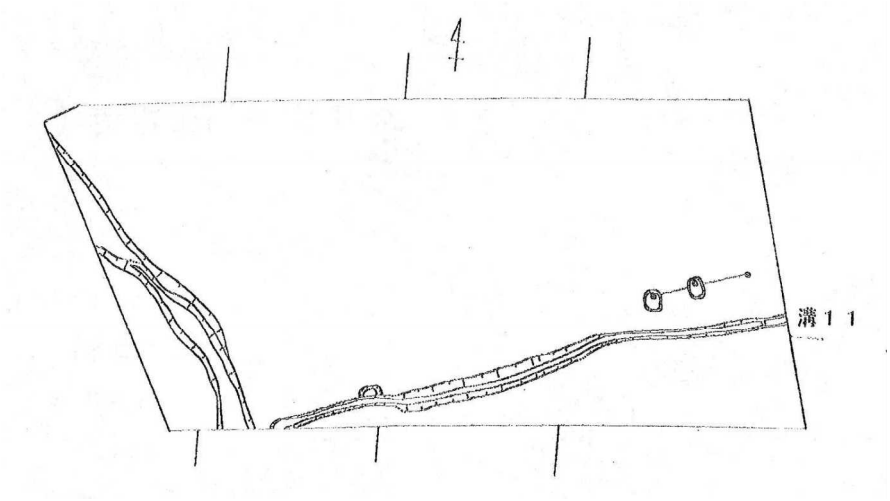
第１微高地からは奈良時代の軒瓦が出土した溝がみつかりました。それは、以前の調査でみつかった築地塀に伴う可能性が高いと思われます。寺院や倉庫などの特別な施設があったと考えられます。さらに、弥生時代後期中頃の土器を多量に埋めた溝もみつかりました。弥生時代のお墓の中では最大規模の一つである楯築墳丘墓の時期にも港など、何らかの役割があったと考えられます。この部分は平成１５年度にも調査を行いますので、より詳細な様子が明らかになると思います。

第２微高地からは、鎌倉・室町時代の建物と、奈良・平安時代の建物がみつかりました。奈良・平安時代の建物の脇には多量の食器が捨てられており、なかには当時の高級食器である緑釉陶器も含まれていました。また、当時の役人が腰に締めた帯の装飾品も出土しており、そういった人々の居住地であったと思われます。

第３微高地からは、古墳時代の竪穴住居や井戸、奈良・平安時代の建物や井戸、そして現法万寺川の旧流路がみつかりました。微高地上からは多くの遺構や遺物が出土していましたが、なかでも市道中撫川平野線での調査で、奈良・平安時代の倉庫群がみつかったことは注目されます。この微高地が古代の港の施設の中心であったことがうかがわれます。さらに今回の調査では、おまじないの道具である斎串が８本も出土する井戸がみつかりました。港にいた役人との関係がうかがわれます。このほか鎌倉時代の土錘（網などのおもり）が３００個以上も出土し、しかも焼けひずんだ失敗品も含まれていることから、付近でこの種の土錘を作っていたことが推測されます。さらに、中国産の白磁や青磁、兵庫県産のこね鉢、大阪府産の瓦器、常滑焼の壺なども数多く出土しており、物流の活発な鎌倉時代の中心的な漁港であったこともうかがわれます。

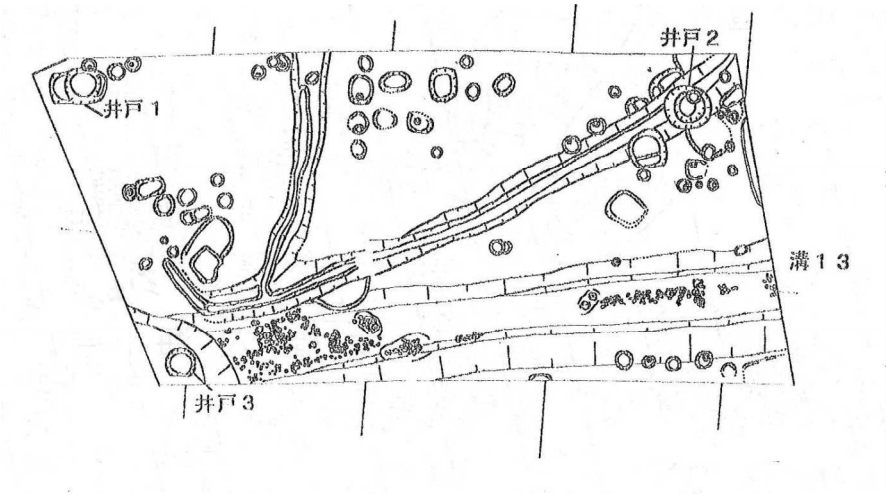
古代山陽道
中山茶臼山古墳
楯築遺跡
車山古墳
川入遺跡
上東遺跡
吉備穴海
大内田貝塚
高尾貝塚

第１微高地（大道西Ｃ区）



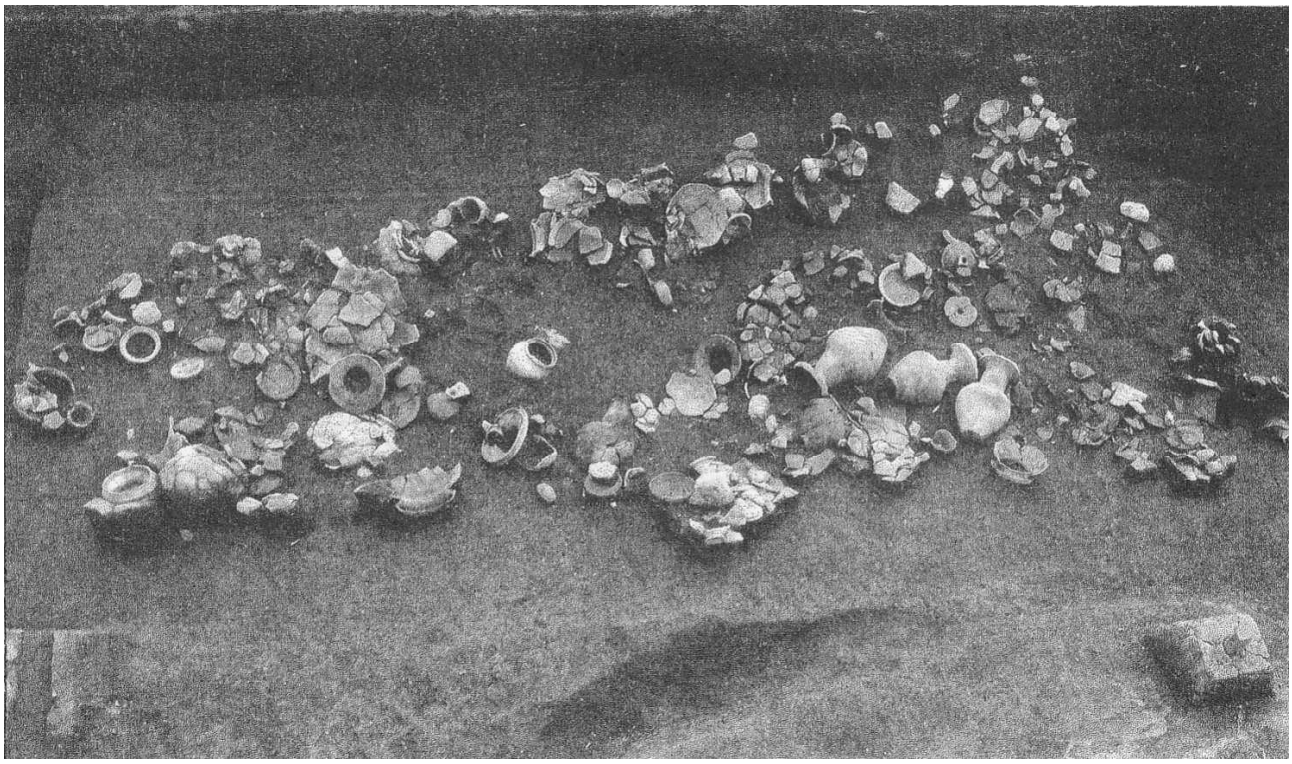
第3図　古代遺構平面図

溝11からは古代の瓦がたくさん出土しました。何らかの施設を区画する溝の南側と考えられます。

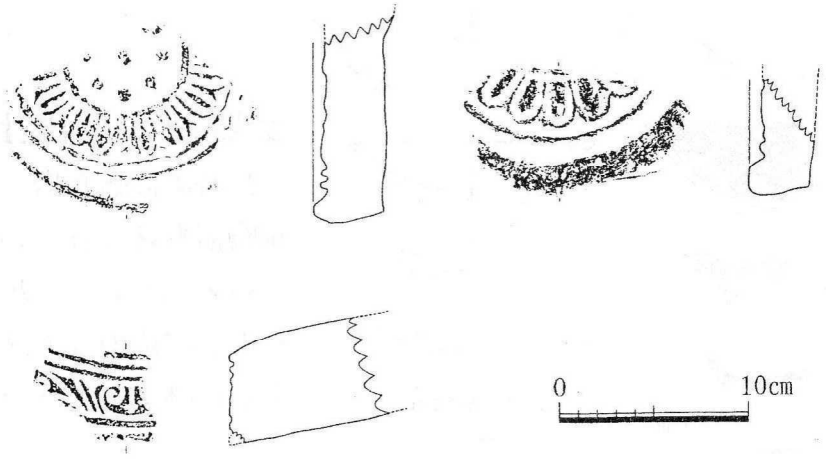


第4図　弥生･古墳遺構平面図

溝13からは完全な形の土器がたくさん出土しました。単に捨てたのではなく、何かのおまつりに用いた可能性が高いと思われます。



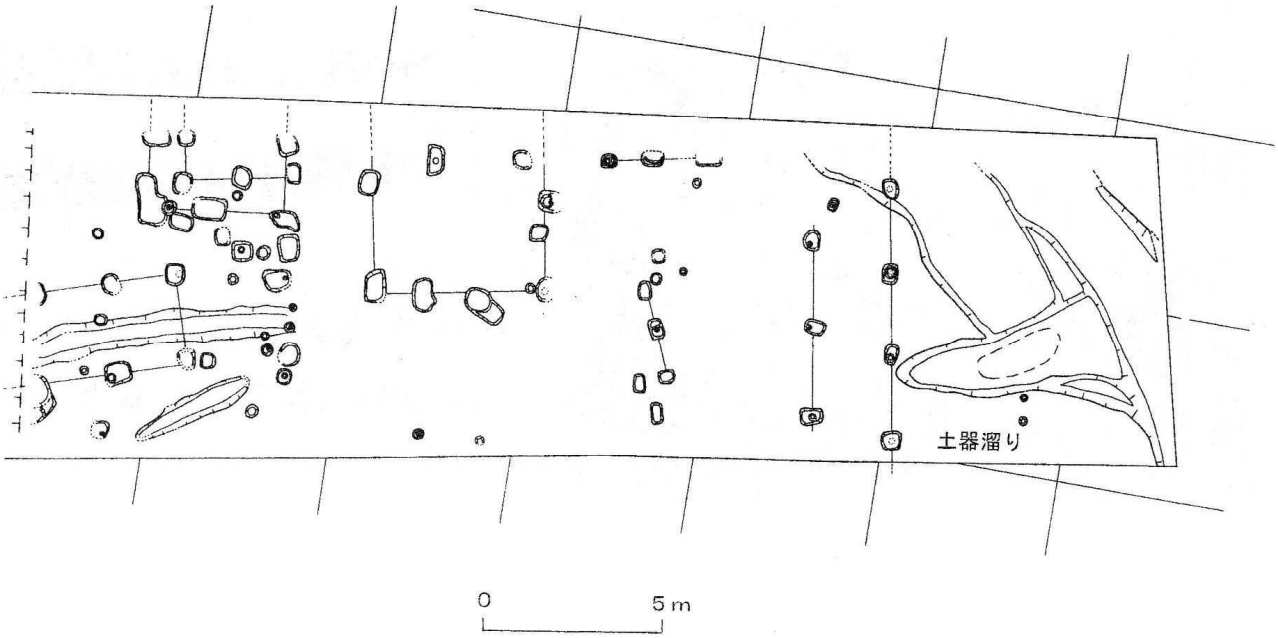
第5図　溝13土器出土状況



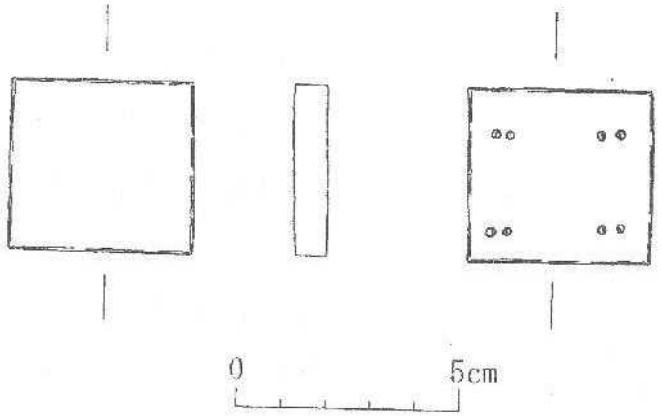
第6図　軒瓦実測図

今回の調査で出土した軒瓦です。平城宮（奈良の都）で用いられたものとよく似ています。

第２微高地（大道西Ａ区･Ｂ区）

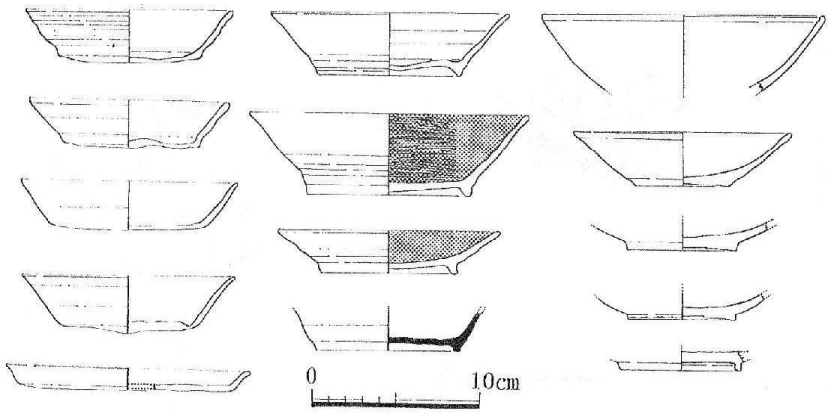


第7図　古代遺構平面図



第8図　石帯実測図

役人が腰帯（ベルト）に付けた石製の装飾品です。



第9図　土器溜り出土土器
　当時の高級食器である緑釉陶器も含まれています。石帯を付けることができるような位の役人たちが宴会をした跡でしょうか。

第３微高地（法万寺調査区）

第10図　平安時代の建物と井戸(左)
第11図　井戸から出土した斎串(上)

第12図　古墳時代前期の井戸
　古墳時代前期（今から約1700年前）の井戸です。埋める過程で土器を入れていました。高坏の脚はとっていることから、お供えなどの意味があるものと考えられます。